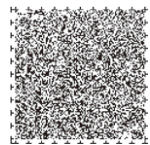




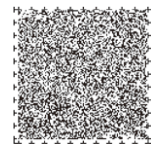
# 知的障がい

18歳くらいまでの発達期において、生活や学習面の知的な能力が年齢相応に発達していないため、何らかの援助を必要とする状態です。例えば発語がなく、身の回りの支援が必要な重度の方や、働きながら生活を送る軽度の方など、さまざまです。知的障がい者の65%は中軽度に分類される方々です\*。主な特徴は「言葉を使う」「記憶する」「抽象的なことを考える」ことが苦手です。ひとつの行動にこだわったり、ひとりごとや同じ質問を繰り返す方もいます。

\*出典：令和4年度福祉行政報告例



▲目の不自由な方のための音声コード



▲目の不自由な方のための音声コード



はいりよ  
配慮

こんなサポートがうれしい!

## ゆっくり簡単な言葉で話し掛けてください。

複雑な話や抽象的な話を理解しにくいので、困ってしまうことがあります。このような時は、ゆっくり分かりやすい言葉で話しかけ、なにに困っているか書いてみてください。1つの指示ごとにメモを書いて渡す、絵や写真などを使ってコミュニケーションを取る配慮も大切です。

## 危険なことが分からない場合があります。優しく知らせてください。

「赤信号でも渡る」「車が来ても避けられない」「断機が下りても線路に入る」など危険が分からない、助けを求めることができない場合があります。そのようなときは、優しく声を掛け危険であることを知らせてください。

## パニック行動が起きたら落ち着ける場所に誘導してください。

状況を判断することが苦手で、予定が急に変更になったり、大声で注意されたり、予想外のことが起きたりすると、大声を出してしまうなどのパニック行動が起きることもあります。このような時は、慌てず、声をかけてから落ち着ける場所に誘導してください。そして、近くに家族や支援者がいないか確認してください。

## 思い込みで判断せず、見守ってください。

障がい軽度の場合、会社で働いている方も大勢いますが、中には「通行する人を無表情で見ている」「ぴよんぴよん跳ねたりする」「一つのことにこだわる」など、誤解されやすい行動をとる方もいます。障がいを理解し、温かい目で見守ってください。

事例

たとえば、こんなことがあります。

知的障がいのある方の中には、コンビニやスーパーに入ったとき、勝手に商品を並べ替えたり、開封したりする方がいます。また、「代金を払う」という考えが理解できず、お金を払わず商品を食べてしまう方もいます。これらの行為を、店員に気付かれないよう「こっそり」とするのではなく「堂々と」している方を見かけたら、知的障がいのある方かもしれませんので、ゆっくりと優しい口調で話しかけてください。そして、近くに家族や支援者がいないか確認してください。



\*ご相談・お問い合わせ先は、障がい福祉関係団体一覧(P46)又は相談機関一覧(P48)をご覧ください。

▲目の不自由な方のための音声コード